

第1回中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル議事概要

日時：令和元年6月17日（水）13：30～15：30

場所：総務省中国総合通信局2階第1会議室

出席者：17名

(1) レビューボード（3名）

- ・中国情報通信懇談会 相原運営委員長
- ・(一社)中国経済連合会 情報通信委員会 永野委員長
- ・中国総合通信局 長塩局長

(2) テーブル（14名）

- ・テーマ1リーダー 広島大学 大学院国際協力研究科 力石准教授
- ・テーマ2リーダー 岡山県立大学 情報工学部 情報システム工学科 菊井教授
- ・国土地理院中国地方測量部 小野里地理空間情報管理官
- ・倉敷市企画財政局企画財政部情報政策課 真鍋主幹
- ・(一社)データクレイドル 新免代表理事、大島理事
- ・(一社)中国経済連合会 清地常務理事
- ・西日本電信電話（株）中国事業本部 企画部 山内経営企画担当課長
- ・中国総合通信局 野尻情報通信部長、中野情報通信振興課長（司会）
- ・広島県総務局業務プロセス改革課 坂本政策監
- ・山口県総合企画部情報企画課 渡邊主査
- ・広島市企画総務局行政経営部情報政策課 竹本課長
- ・岡山市総務局総務部 飯塚参事

事務局：6名

- ・西日本電信電話（株）中国事業本部 村田ビジネス戦略部門長
- ・(一社)中国経済連合会 瀧口部長、菅原調査役
- ・中国総合通信局情報通信部情報通信振興課 浅胡課長補佐、山岡チーフ、中垣官

【議事次第】

1. 開会

2. 議題

- (1) 設立趣旨、活動内容等について【テーマ1、テーマ2共通】
- (2) 広島・呉・東広島都市圏災害時交通マネジメント検討会の動き【テーマ1】
- (3) 倉敷市真備地区の浸水被害を事例とした防災（水害）分野のオープンデータ活用ベストプラクティス作成について【テーマ2】

3. 今後のスケジュールの確認

#### 4. 閉会

##### 【議事内容】

##### ○ラウンドテーブルの設立及び活動内容等

地方公共団体のオープンデータへの取り組みを加速し、中国地域のオープンデータの利活用推進を図るため、中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブルを設置すること及び今年度の中国情報通信懇談会活動として、年4回程度、ラウンドテーブルを開催することについて、出席メンバの承認を得た。

##### ○テーマ

今年度のテーマは、防災（公共交通）と防災（水害）の2つとし、それぞれ防災等の観点で「①実現したいこと」を合意したうえで「②伝達すべき情報」、「③必要なデータ」の順に議論する。

これにより、中国地域内で共有すべき「必要十分なデータセット（オープンデータ）」の提示を目指し、また「伝達すべき情報」を効果的に表現する「推奨テンプレート」を整理して地域内で共有できる形で発信することを目指す。

##### 【意見交換（概要）】

##### ○テーマ1「防災（公共交通）」

リーダーから国土交通省中国地方整備局等が行っている「広島・呉・東広島都市圏災害時交通マネジメント検討会」の概要について紹介があり、データ利活用の部分について、連携を図ることを検討及び国土交通省中国地方整備局等に対して、当該ラウンドテーブルへの参加を働きかけることを検討。

##### ○テーマ2「防災（水害）」

・必要な情報のうちデータフォーマットがないものについて議論し、中国地域版の推奨データセットとして広く提示したい。

・第2回ラウンドテーブルの開催までに関係自治体から防災に関する課題等のヒアリングを実施していく。

・国の推奨データセットにトイレー覧があるが、なかなかその情報を集めるのが難しい。誰がどうやって必要なデータを集めるのかというのも必要なことだと考える。

・オープンデータを出す作業は、職員へ負担がかかるため、そのデータを利用してもらえらる等のニーズを把握しながら作業をしていくことも必要である。

・オープンデータは、目的がはっきりしにくいいため、単独では予算も確保しづらい。何か他の目的と掛け合わせることができれば、オープンデータの推進が図れる。

・データ利活用は、これから重要になっていくと認識している。ラウンドテーブルで様々な動機付けをすれば自治体のオープンデータの推進に役立つ。

- ・市民目線でみれば、実際に災害が発生した時に具体的に避難できる経路を地区防災計画へ落とし込むというのが課題のひとつになっている。
- ・一概に水害といっても様々なケースがあるため、ベースがないと話が拡散する。今回のラウンドテーブルでは、昨年7月の豪雨災害を受けた倉敷市の取り組みをベースに議論を行った方がいい。
- ・オープンデータは、自治体が保有している情報を出すというニュアンスが強いが、災害時に地域住民等が持っている情報をオープンデータとして提供できる仕組みがあれば、情報の収集という点で効果的である。